

繪本三國妖婦傳

上編
四

13

2892

4

3 4 5 6 7 8 9 170 1 2 3 4 5 6 7 8 9 180 1 2 3 4 5 6 7

門へ 13
2892
巻 4

繪本三國妖婦傳卷之四

目録

悪狐天竺に至る 鶴幣求来の由

姫皇太子威爾葉吹あふ圖

官人美婦瓜守得る圖

農夫鶴幣を返る圖

三國妖婦傳 目録

昭和九年三月三日

鶴美女と化して農夫に嫁むとある圖

鶴髦繡衣執して子金枝賜る圖

延喜太子遊宴並養陽夫人太子成滿と

長栄館に遊宴の圖

延喜太子養陽夫人成電愛の圖

一朝聖教廢

感葉和秋風

不有耆婆例

國中渾為空

班固太子
レゾクタイシ



クハヤウブニ
華陽夫人



笑靨陷君子

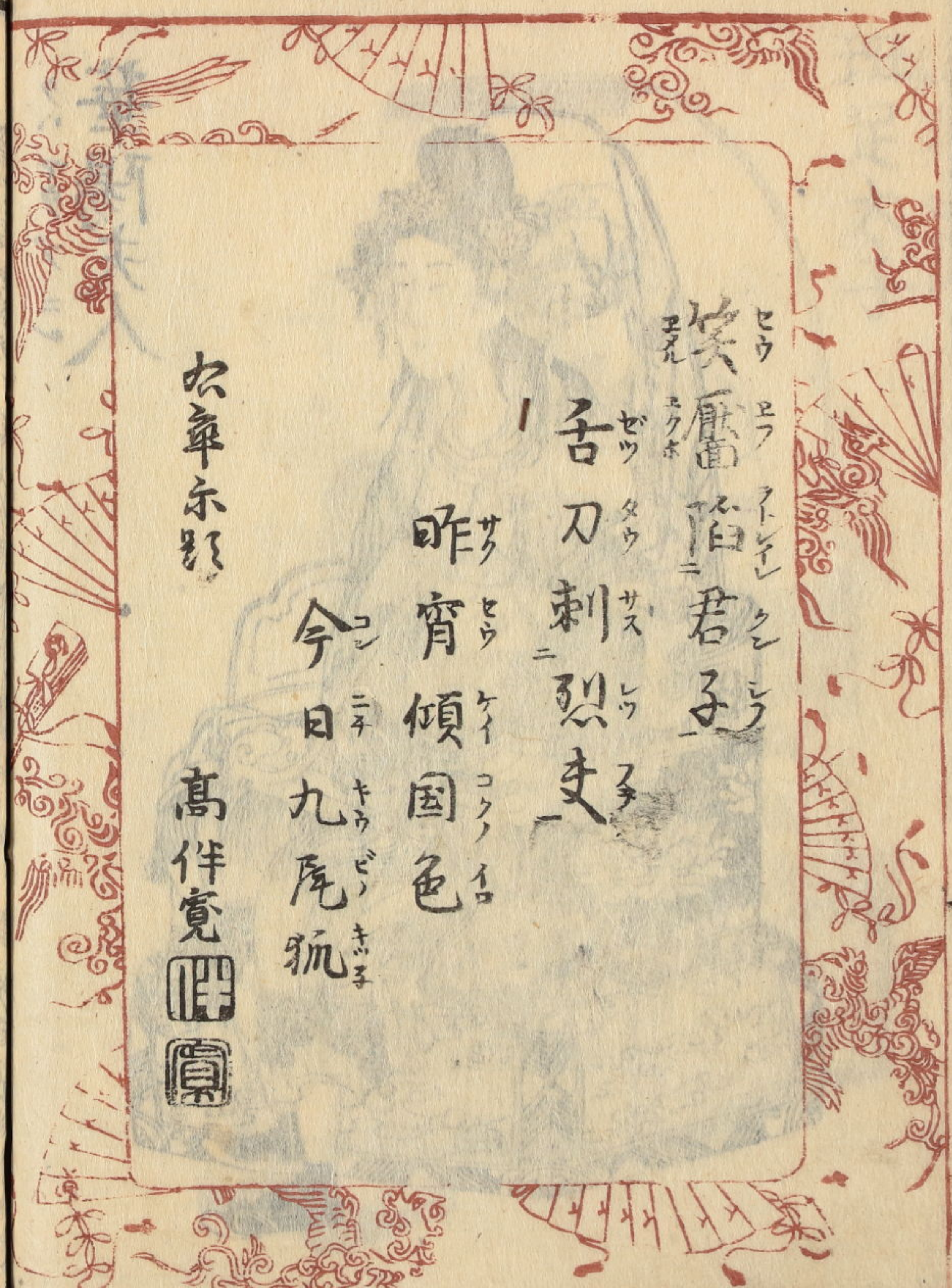
舌刀刺烈支

昨宵傾国色

今日九尾狐

水車示野

高伴寛



繪本三國妖婦傳卷之四

魚批天竺に玉英鶴敬毛妻此由耳

斯に唐古此西に去る印度と云はあり頗大ははて

天竺と云ふもの大まにみツにこふの申天竺東天竺

西天竺南天竺小天竺といふ乾坤の五方を

唐古にかゝるものれいと之をも佛説によるは印度

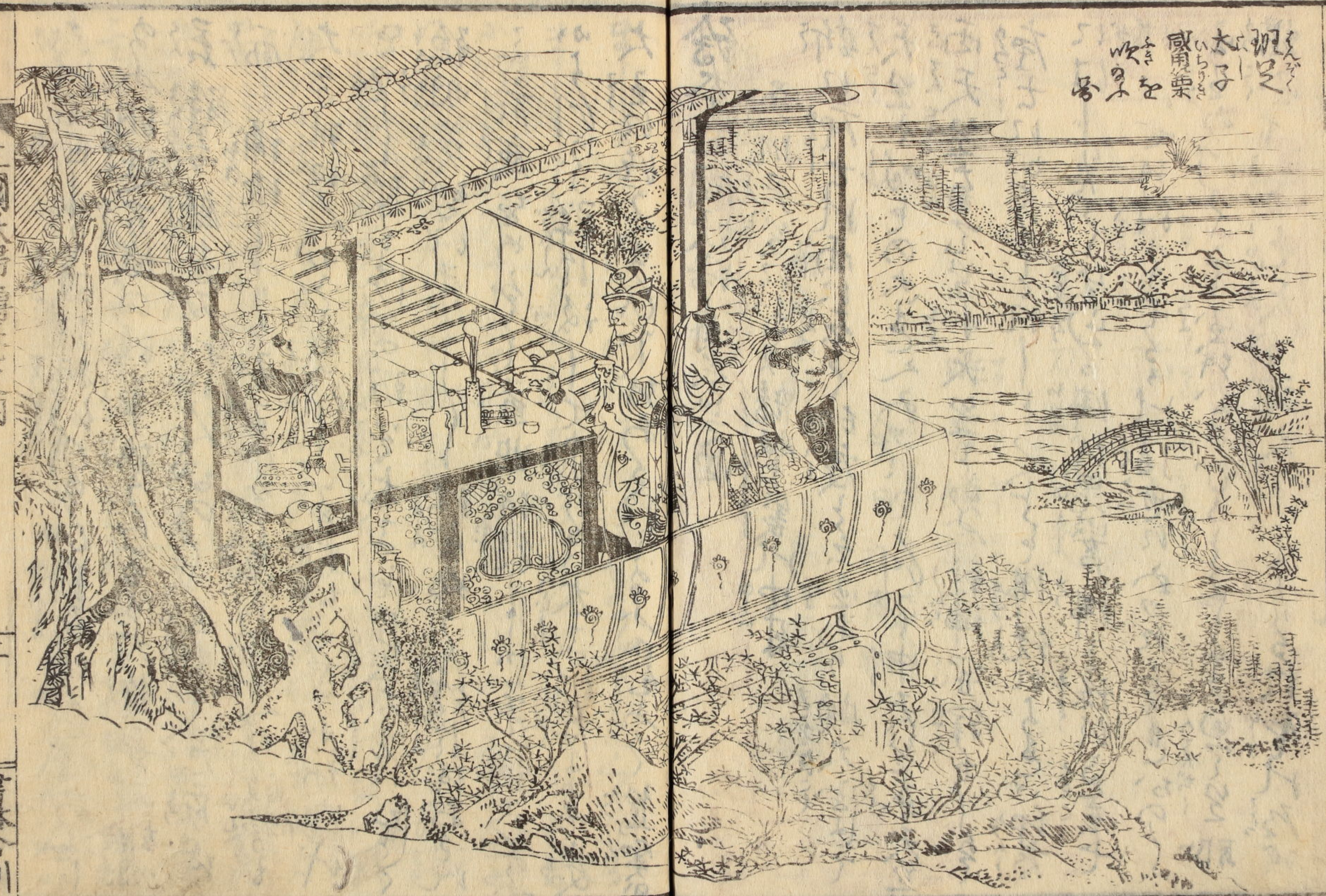
にははたはてしなく佛の毘波芦佛と稱するを云て

佛の世に強くたるは此後世にみツにこそおのく

玉玉の門くそを玉城おさむるとやそをもては耶

竭ふて神毛天由朗大玉とてハルは聖れ及

大子 足
感 栗
吹 泉
吾 泉



三國天婦傳卷之四

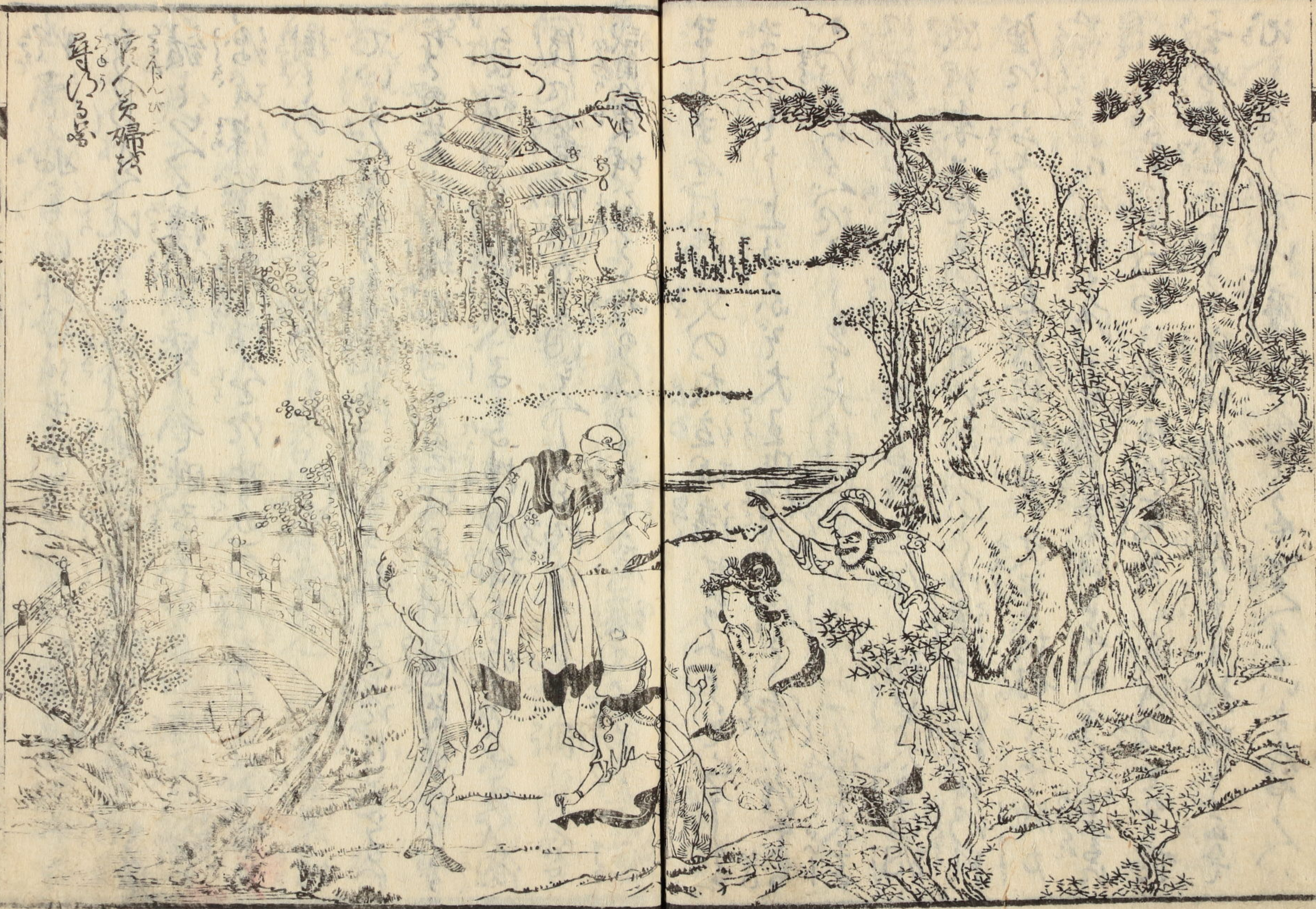
三國天婦傳卷之四

書林

書林

大いに正しく政教辨ひのまひ善民は是は辨あはれ
 のみ朝廷百機の政事城うけのる大位兼葉又都内
 君孫皇孫麟皇皇及れに人おのく正しく忠節城
 勵し補統しりる玉皇年老しせのくは政務も
 大方非に人わく変ひし玉皇ちとやう小勅政代
 を記しなまほ子班皇太子を又文大皇に記して
 徳明英智いましに記しぬく法に代あされ
 こ前廣をめぐりて意地城記し山年長とせのま
 かうけし群臣改して中りるハ太子に孝よして又
 大皇に記くまひ下代あされまよ山とやう篤實の

ましませばはけ又の大位城讓せまよとせしる
 まじとち上りるふぞ大皇所ほびあけく遠くはそま
 おほもらふ地うしと大位のあしと計か万機も大皇
 に記し又文大皇も皇皇守んじ班皇太子の如
 政教兼させのま日城色ふびく由讓位し城記し
 皇記小定りる志うほに太子ハ文皇好くそ御力
 皇後の心を城うけしを感戴兼城とてあまび明書に
 皇のまじりしづつおれそ好城皇夫と道城ゆせの穴
 皇のまじりしづつおれそ好城皇夫と道城ゆせの穴
 地うけし皇此皇も記しとやまくるいといんや人ハ



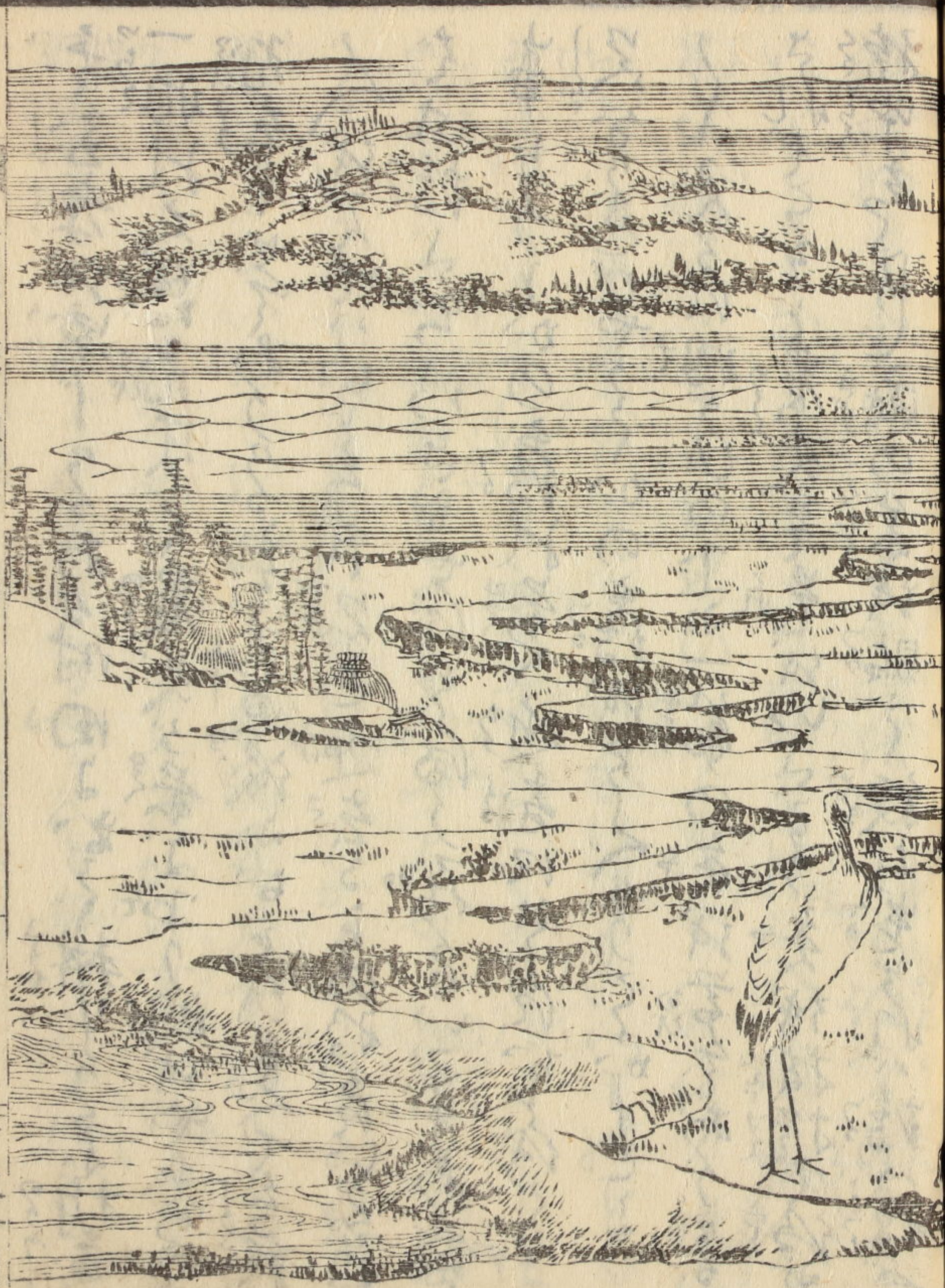
官人
 吳婦
 尋
 乃
 尋

おほしき御意に沐を成せば(喜 意 志 志 施 意 者)
あふりて比に秋に末は(比 秋 末 比)
彼とくる樓閣に昇りて眺(眺 望)
遠城(遠 城)
樹(樹)
て、いんちかしく傍に侍従(侍 従)
て、いんちかしく傍に侍従(侍 従)
て、いんちかしく傍に侍従(侍 従)

威敷(威 敷)
向ふの樹は(向 ふ の 樹)
いと(い と)
おほしき御意に沐を成せば(喜 意 志 志 施 意 者)
あふりて比に秋に末は(比 秋 末 比)
彼とくる樓閣に昇りて眺(眺 望)
遠城(遠 城)
樹(樹)

まに波不ぬを級む唄ふ声は志まひ守りよめは
 とまろのまゝ人の質女はんは多しとてさうぐれ
 ひびきせとそむいけりかくと奏しつるまは
 ちやくと見へつるまはとて作にらて樓の上のつ
 おらるをんてあまの容貌は質女よして河かゆ人揚
 柳の姿嬋娟とて美れ敷き丹花の唇あてやふ
 芙蓉の眼睫一何とぞも教玉れ替は裁た給
 天女は天降りて美薙れ髪向一のつらと奇なる
 つれを秋しと平伏しとる粧ひ凡人とも思はれ
 天女は天降りて美薙れ髪向一のつらと奇なる

抑世婦人れ是せ一巻の筆書としく所獲ハ鶴の毛
 をあつと感おしとるものそを日中は尋ねばむ
 度去れ下らざるある御里の農夫まゝ人れ老母
 け久く孝の行へり相とらそ記く食物を備
 て母になりて外は事不自由の好さやうに中か
 りてはつとてハ農業ははと先をせめをかきばな
 我家うまはつり又やうひのる田をりても
 我もおれとてとてぬやうに居り夜は寝て
 按摩しとてとてとて母れ喜音に寝食は
 むらむらと年つらに思はれやとてとてとて人



三國史記卷之四

鳥羽



農の
道
居

三國史記卷之四

六

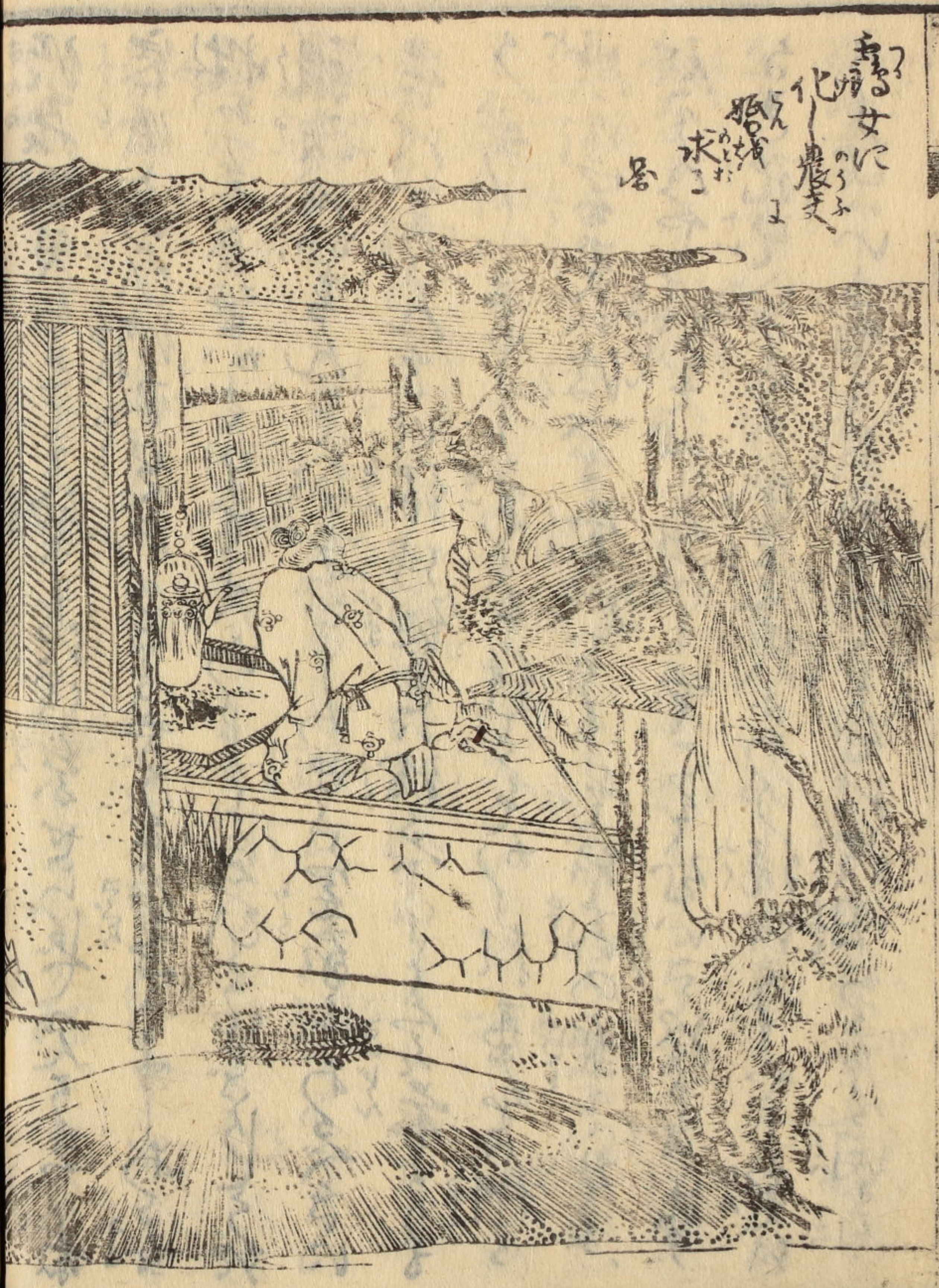
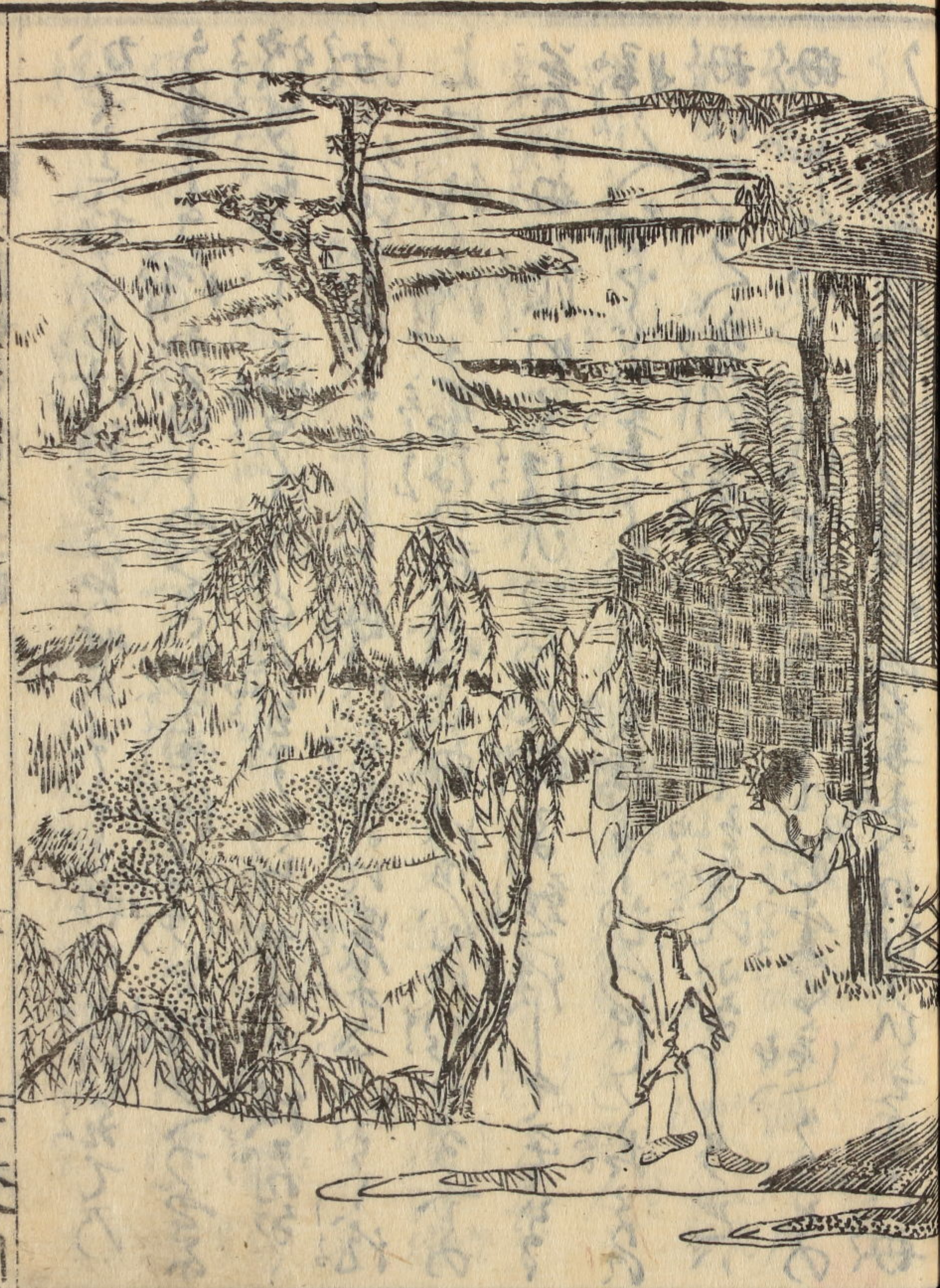
書林

至孝誠感^{よきまことまこと}ド^んるある時^{とき}田^のよ^も耕^はり^つる不^た折^りる
 一^つ羽^はれ大^た誇^ほれ花^は束^{たば}く農^{のう}夫^{ふう}が業^{わざ}よ^り羽^はれや^もあて
 花^{はな}を^をせ^ぎあ^つら^るむ^ぞあ^い思^い海^はも^もひ^まづ^てる^る
 人^{ひと}誠^{まこと}ん^てい^いか^らん^んと^も思^いを^を進^{すす}む^るもの^{もの}の^のね^にい^いな^れ
 だ^いの^の誇^ほら^るは^はも^もせ^ぎを^を備^ひる^る所^{ところ}を^をい^いる^るあ^あは^は
 事^{こと}なり^りと^とか^かの^の誇^ほれ^はな^なく^く近^{ちか}き^きに^にい^いた^たが^があ^あら^ら
 笑^{わら}ふ^ふも^もば^ばや^やぐ^ぐか^かの^の誇^ほれ^はと^とく^くり^りと^とか^かい^いと^とも
 く^くん^んの^の羽^はぐ^ぐひ^ひの^の下^{した}か^か一^{いち}節^{せつ}の^の矢^や誠^{まこと}を^をあ^あり^り
 され^{され}と^と農^{のう}夫^{ふう}を^を是^{こゝ}に^にい^いて^てり^り矢^や誠^{まこと}技^{わざ}持^もて^ては^は
 孫^{まご}中^{ちゆう}を^をり^りし^し衣^いの^の葉^は誠^{まこと}貼^はり^り放^{はな}ち^ちを^をれ^れは^は誇^ほら^らは^は

神^{かみ}誠^{まこと}なり^り雲^{うみ}井^いなる^るふ^ふ羽^はの^のし^しに^には^はり^りあ^あら^ら
 い^いづ^づと^とも^もか^かく^く花^{はな}を^をり^り窮^{きゆう}を^を懐^{なつ}に^に入^いる^る時^{とき}ハ^ハ獵^{りつ}人^{にん}も
 是^{こゝ}に^に捨^すす^すと^と云^いふ^ふ誠^{まこと}思^いひ^ひい^いて^て農^{のう}夫^{ふう}ハ^ハ誠^{まこと}く^く性^{じやう}能^{にゆう}
 ち^ちも^もよ^よく^く農^{のう}業^{ぎやう}誠^{まこと}に^にり^りて^て我^{わが}家^かに^に帰^{かへ}り^りも^もけ^けと^と
 母^{はは}は^はく^くり^り子^こを^を後^ごす^す農^{のう}業^{ぎやう}も^もく^くを^を傳^{つた}へ^へり^りせ^せに^に
 窮^{きゆう}窮^{きゆう}する^る女^{によ}性^{じやう}我^{わが}家^かハ^ハ河^かや^やん^ん母^{はは}と^と後^ごに^にを^を居^い
 う^うら^らが^がい^いふ^ふも^も下^{した}さ^さぬ^ぬは^はあ^あら^らば^ばか^かく^くや^やん^んと^とら^らる^る上^{うへ}
 籍^{せき}の^のう^うら^らい^い婦^ふを^を植^{うゑ}せ^せる^る尊^{そん}孫^{そん}も^も人^{にん}や^や那^なと^とい^いふ
 河^かの^の事^{こと}を^をり^りて^て母^{はは}り^りあ^あら^らる^るや^やん^んと^と母^{はは}と^とい^いは^はい^いふ^ふ
 一^{いち}思^いひ^ひて^て死^し母^{はは}に^に言^いふ^ふた^たら^らえ^えか^かの^の女^{によ}性^{じやう}ハ^ハ人^{にん}と^とい^いふ^ふ
 河^かの^の事^{こと}を^をり^りて^て母^{はは}り^りあ^あら^らる^るや^やん^んと^と母^{はは}と^とい^いは^はい^いふ^ふ

婦妻わし一羊若るに心電分一かそ家業出情一
 走りを考ひるる誠感一妻女に那しくまよとすまの
 親あまごもゆぐをいふわんや我をうる下とわに流る
 先程より取り束ふ誠情せまいつすゆぐそ小は度
 と香細かきりけしせらるる農夫のいこ我うる後
 為よそ河の原ういん留守に母れるゆよりとをわり
 農業ふむる写れ安むめを好るるは河のくさるは
 産乳ををながるる常なるる女性をどうかを養
 家はすまろく末と帯らむん、是れ来る記事ふことと
 つふぞゆはくされどまよ我もさるるなむまむこの

河原見らまても負一は誠泰せらば入るる家
 容儀といひ河不見あむるやうを定まよ一あむ女
 性うるをかくまよまあどと思ひうるさくしる
 誠誠誠かきんを中まをわまの室家をおまむに
 吾れからん方に縁城廻るば城と一と家業うるも
 う一かごさせ一糸も糸どもか新事をば何ら
 厭ん室家か浮べる雲れど一是城志の樂と持ふ
 産らんや清美城あれ一まこそをいふたふ事
 かと死生命あり室家天小あり福城うやま美城
 うしむいんく思ひまよとをけ情明らるる綱を固

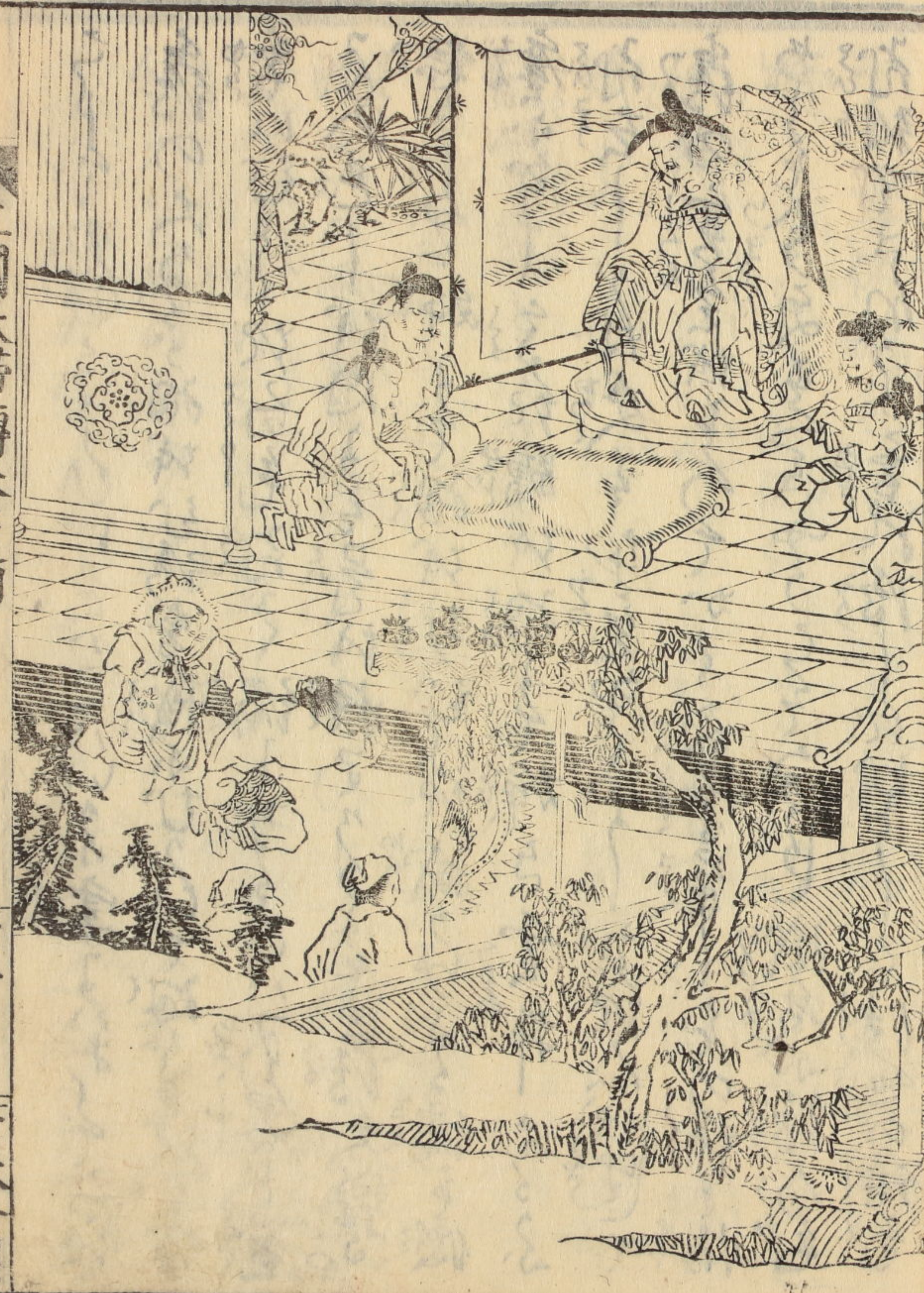


喜ぶ女に
化の農夫
求むる
名

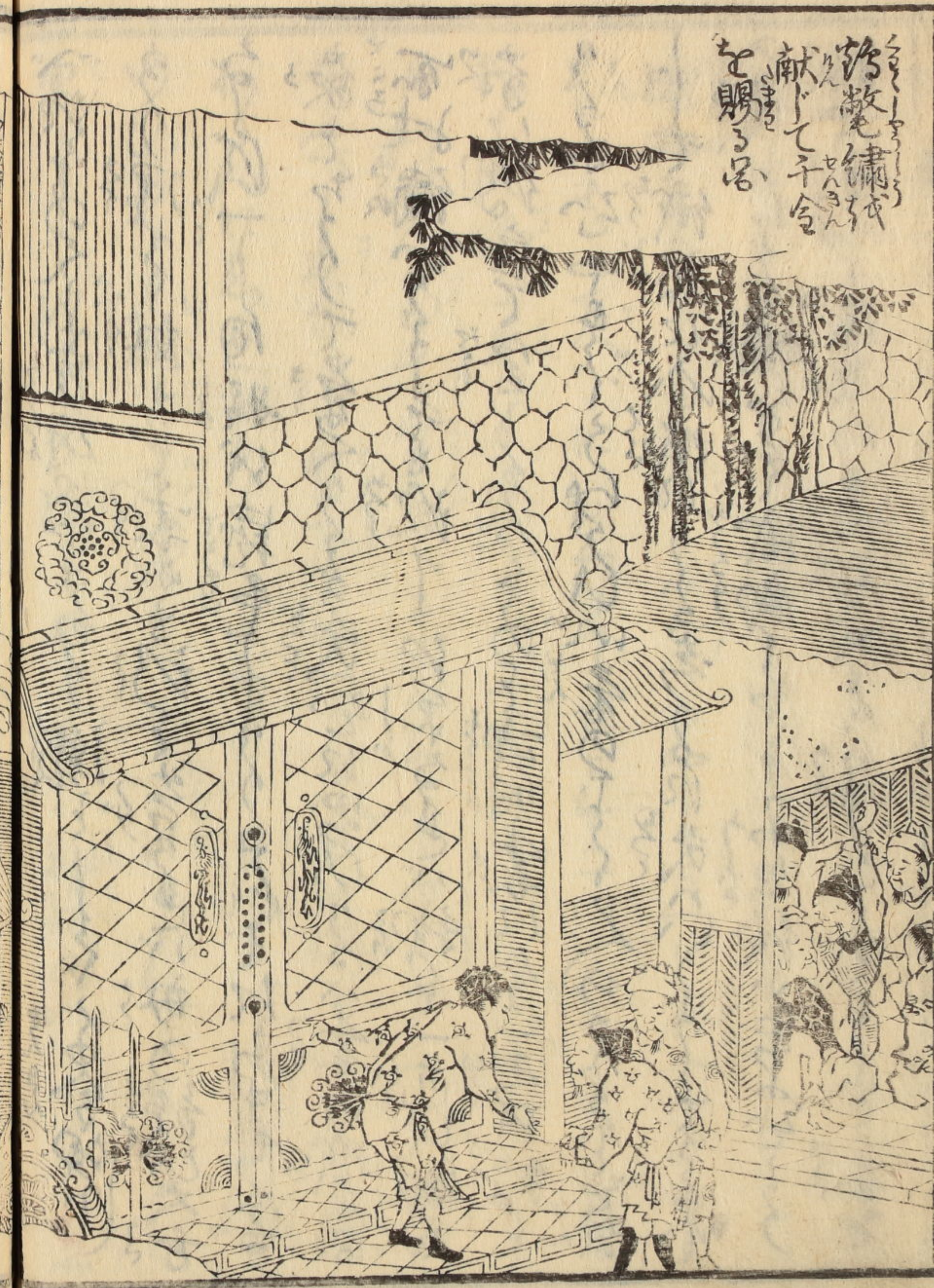
三國女仙傳卷之四

かくと我子の汝哉貴員せらるる母の爲に死て乃
 うもしと所小あまのむきも角汝が母を侍りつる
 汝が母とと驚くも死をすんらせり汝が母
 汝が母を定めて一と母れを家に農夫がいで一
 上は我の河う石存のおるも母れ心いゆせり
 若くは汝が母に懐くも母れ熱病して死す
 母れをせむめ書とて一夫婦中むつはくおる
 母れつうく存のありていと急にがが一うと
 母れ中いかにむきを隣中ぐも能書と送らるる
 くとそあがりある時かの書夫にむいそるる母

うく貧一に汝若う一糸代いそ死のうと
 乙若くは我のそ一正の繡織物
 其は汝が母に持てて帝にさげば價を
 汝のそ一物もさるる世貧窮汝が母も
 安樂なるんおく織物とつひの世と動らるる
 其は汝が母に造らるる書又云は我が母織
 るはるはるかを死するも母れを死す
 人にもバ繡織物をもとて一と此に告げ
 母れはかの母れ又志づる織物を織る人白
 揚らるる母れはかき母れ夫人にんせらるるを白



先帝
 於
 此
 處
 講
 武
 故
 曰
 講
 武
 殿
 也
 今
 獻
 上
 皇
 后
 之
 賜
 物
 也



ころそをいふひけつはいふ妻よあぞるに
 秀の大方もがぬ城を築きむらひてぬが
 香にむらむら白毛花ぐ繡とちるこは
 入のき一城内よそは城はむらむら
 怒りもむらむら城を築きむらむら
 塵ふか一城内よそは城はむらむら
 飛去一城内よそは城はむらむら
 秀の宮を城とつてかくあふ宮を
 めども今更とむらむら城を築きむらむら
 花散てされぐ香れ繡にむらむら

小を雪似鵝毛飛散乱人被鶴毳立徘徊
 城一城内よそは城はむらむら
 城の女巧に命ぞもむらむら
 城一城内よそは城はむらむら
 鶴毳求衣とる名はむらむら
 班固太子逆享并舞陽夫人太子城落
 既よかの威風凛凛に命ぞもむらむら
 子の伊茶に立生むらむら
 我天竺國のものあはれ河玉の者そ何ぞ
 一城一城内よそは城はむらむら

八夜七段の討まの後文には一嬭妃の事
 大軍城遣一攻なり段を討むべし討まいつの
 小てふつう焼く崩れぬ武王を我捕く
 小からんとせし城ありしと思ひ遠く
 さゆふひ其まじり武王の仇らるる
 一にせにぬ城やうもづらるる天を敵
 どもいふせん高婦女のめ城りつて
 ざる孫急こよあさしつうの憐愍
 高がめれぬや城もささるる
 志りし海とあらぬ云らるる
 嬭妃太子姫を討む

石あつた城遣れり高婦女の敵を
 高笑答れ高城合ある同情
 させむひ海とあらぬ云らるる
 中うせ今日より朕が例あて
 ド一動むべしとらるるの作城
 太子城九層一なり層遣の
 花れぬ城ありしついで
 世々忘却あると謝す
 嬭妃の仇を討む
 從身の事一城ありし
 太子姫の仇を討む



ちやうえいさん
長榮敏小
遊宴の景



母をくみ舞城をへはるん一曲をそんと思ふどもはが
 玉の舞のけほに御子城をそのなくけ玉の舞のなま
 の樂芸の御子とよ美平御子我一曲舞てんせん
 せんをんまびくはるん又一曲舞んやとありはるん
 つらんをそはるんけりあふあふと歌舞の業
 けりけりけりけりけりけりけりけりけりけり
 先一曲あそはるんけりけりけりけりけりけり
 感ずるに竹ありと法友に民色けりけりけりけり
 報かどの政成命せりけりけりけりけりけり
 を歌に

長禁樓上臨東方 吹送秋風歌謠長
 始見美人天漢落 知愛紅楓來翱翔
 すでに歌舞終るる色バおのゝ感ふ城の跡
 志ばし止らるりかくて海空つらるるに及んで婦人の
 命に志るるひ一曲舞てんんと麻城にたえあがり
 舞よもて頑奇に
 故園遙去寄西方 山水阻且道遠長
 若蒙邂逅值遇惠 願為比翼起高翔
 舞よもて頑奇に
 舞よもて頑奇に

三國伏歸傳卷之四

十六

書



ちんぞく
明定太子
新陽夫人
電電の鳥



法皇御之威儀誠備（ついでに）一々（ついでに）太子は沙羅樹下
 一のり伊遊宴に遊り婦人のえらう太子は思
 けうかさん（ついでに）とてをいふに穀城を（ついでに）備えりて
 ちよほほとんと是にむさせらば夜もぬきも
 敏く文中に還御せり度殿に入つてあひて
 経かくかの婦人ををらせらばぬりて安城を
 是より西都をのりて元陽夫人と名を明書
 姫御もいふとてささひ志ばしを伊例城に
 西又帝氏天沙朗大玉にせらばし皇勢朝廷の
 政をとりて小荒みまば大臣に人備へる

玉事とあへては入らばずむとのほははれ
 のひ元陽夫人に賢を思ひて集むるを
 此後とては後をいふは後世秦の花
 陽夫人もいふは太子の寵妃の賢を思ひて
 法皇らとては又羅天南と云ふあり
 所所々仙人おはして文学世に播き世の道士あり
 清言の風ありて小唐をば探求すは方に遊んで
 小唐の世をいふは南天竺にきて茶を
 致ひる理定太子えらう文学城をぬき
 道城字ひひりて殿にまきば禱城をぬき

若山の花を賞し、京北の遊覧めをわたりて、
 言論城の多ひりりゆらに花陽夫人をばりて、
 以りしうま文も打探させ、多ひりり天道士城なりとも
 恨くあざりし、武州乃士大子、此の安吾翁の母なる
 小大子かの英婦人と、壽延回下りして、乃士城近の地を
 能くうべ道士宮そ云君よ、婚期は、大徳の進んとも
 御く度席をばりし、多ひりり婦人のいうるものぞや、大子言
 て、宮の我をこそ、懶くく之く、先生小見ず、今い婦人
 志く、これ訳あつて、我の母城あるものごと、乃士のいと、男
 女の道、いれも、恨くく、びまて、いんや、まはれ、位とも、嗣

せのうべを、西の出入を、一く、ぬ、婦女城、近づけ、うんと
 徳城、指く、べ、其、基、く、述、に、退、き、の、基、と、符、め、なる、大、子、言
 一、言、我、大、小、誤、も、先、生、の、詞、に、後、平、一、と、言、ひ、り、う、文、に
 を、沙、法、を、か、い、し、く、文、字、を、指、の、ふ、ふ、道、士、ハ、再、び、大、子
 を、官、中、で、ま、小、得、り、り、る



強中二風妖婦傳卷之四終

